

22年間助成を継続して

この度、理事長を退任いたしました。理事長として16年間、その前は評議員に就いていましたので、当財団の運営には設立以来ずっと関わってきたことになります。

この22年間「人間と機械の調和」を促進する研究活動に対する助成を継続し、一昨年からは隔年で立石賞の表彰も開始しました。長年助成してきたのだから、その成果は「人間と機械の調和」を促進した研究として広く社会で評価されているはずだということで立石賞を設立しました。

果たしてその期待通りに、当財団設立当初は若手だった助成金受領者の皆様が、今まさに世界をリードする研究者として立石賞に推薦されてきました。そして、その中から厳選された受賞者の講演では、研究成果もさることながら、その真摯な研究姿勢もまた聴講者の心を打つものでした。助成を継続してきてよかったという手応えを感じました。

もう一つ長年助成してきて感じていることは、「人間と機械の調和」の意味合いが拡大し、しかも重要性が増していることです。当初は、機能的で利便性の高い機械やシステムを開発するための研究課題が多かったように思いますが、次第に安心、安全、健康、環境などに関するテーマが増加し、研究分野としても理学・工学・情報学から医学や社会科学との学際領域に広がっていきました。

そして昨今、世界規模での災害や経済危機が続き、人間が積み上げてきた科学技術や知見が微力であることを目の当たりにするにつけ、忘れてならないのは人間が主人公の社会の回復、すなわち人間と自然環境と科学技術が調和した社会システムの実現だと考えております。「人間と機械の調和」とは、そのような人間重視の視点に立った豊かで健全な最適化社会の創造であるという広い解釈のもと、当財団の活動が少しでも人類が直面している課題の克服に寄与できるよう願っております。

最後になりますが、理事長在任中は格別のご懇情を賜り、心より厚く御礼申し上げます。後任の立石義雄に対しても倍旧のご支援、ご交誼を賜りますようお願い申し上げます。



前理事長 立石 信雄